



もうすぐ冬休み。
たくさん本が読めるぞ！

としょえもん

一学校図書館サポートだより 第3号(通巻11号)

派遣サポーターに期待する

陶鎔小学校 半田あつ子校長先生に聞く

この9月から市内の小中学校17校に、司書資格を有する6名の「学校図書館サポーター（読書推進担当）」が派遣されて3ヶ月。サポーターの皆さんはそれぞれの学校にもなじんで、徐々に成果を上げつつあるとうかがっています。そこで今回は派遣先の1校である陶鎔小学校の半田校長先生に、学校として派遣をどのように受け止め、今後にどんなことを期待しておられるかがありました。

(11月26日取材)

□学校としてどんな仕事を依頼していますか？

派遣開始早々の9月には、全校15クラスに1時間ずつ図書館利用のオリエンテーションをお願いし、続く10月にはやはり全クラスに

ブックトークを実施してもらいました。どちらも子どもたちには好評だったようです。また図書館の環境整備や蔵書の修理のほか、図書委員会活動の支援や読書月間の推進にも一役買ってもらっています。本校では昨年からの図書ボランティア活動を立ち上げていただいておりますが、月に2回ほどボランティアの皆さんと一緒に活動してもらっています。

□図書館やその利用が変わったと思われる点はどんなところですか？

図書館の様子では、本が机の上に置きっぱなしになっていたり、違う書棚に返されていたりすることがぐんと減りましたね。何よりも来室児童が増えて活況を帯びてきたことが大きいと思います。また後期の購入本を選定する際には、司書教諭に対して専門的なアドバイスをしてもらいました。特に、本校の図書館の現状をよく把握し実態に即した助言でするので、学校派遣司書さんならではの強みだ

なあと感謝しているところです。

□児童や教職員の反応はいかがですか？

たとえ月に数回であっても、本のことを知っている専門家は児童にとって頼りがいのある味方であり、新たな興味も意欲も湧くようです。親しくいろいろと相談できることで、結果として図書館利用、本の貸出し数も増えている実態があります。一方で教員にとっても図書館活用について再確認できたようで、児童の図書館マナーの向上の一因になっていると思います。中央図書館の学校貸出しを利用する教員も増え、学級文庫に調べ学習にと活用しています。

□今後に期待することや課題などありましたらお聞かせください。

学校にとって短期間でこれほどの効果が表れるのですから、次年度以降も継続、拡充を望んでいます。また、今年度は光熱水費節減に伴う図書購入予算の特別配当がありましたが、おかげで蔵書の更新が進み大変ありがたかったと思います。今後にも期待します。



■ 陶鎔小学校5年生、派遣サポーターによるオリエンテーション（図書館の使い方）



平成24年度 研修会報告

第三回司書教諭研修会「選書のためのブックトーク」

奥多摩町立氷川中学校司書 田沼恵美子さん 12月3日 教育センターにて

イスだけを前に並べた会場。講師と参加者が至近距離の中で、まさに息遣いを感じながらの研修となりました。ブックトークは子どもたちに本を薦める上で有効な方法の一つであり、それは選書につながってゆくということをご自身の経験を元に話された後、赤頭巾ちゃんの人形を使った自己紹介、そして願いのろうそくが点灯されて本の世界へ。「ひとり、ふたり、そして...みんな」(小学校低学年)・「せかいのひと、たくさん」(小学校中学年)・「ちいさい、と、おおきい」(小学校高学年、中学生)のテーマのもと、学年に合わせて選書した本を、時に読み聞かせ、時にストーリーテリングの方法で紹介していただきました。

先生のお話の中には選書につながるいくつかのキーワードがありました。たとえば「自校の教育課程に基づいての選書」というお話では、学校図書館を学習のための情報センターとして位置づけ、教科書に載っている本を集めたり、国語だけでなく全教科で使える本を準備するなど用途やバランスに配慮した選書が大事なこと。さらに「好きなものを見つけるために本がある」「好きなものがあるから本を読む」というお話では、田沼先生の子どもたちと本との関係への深い思いが伝わってきました。

最後に、ブックトークのスタートとして「火ようびのごちそうはヒキガエル」(ラッセル・E・エリクソン作/評論社)を挙げたワークシートを紹介していただきました。一冊の本からたくさんテーマが広がること、言い換えれば「優れた作品にはたくさんの切り口がある」ことを示してくださいました。子どもたちの読書活動を豊かにする本を見抜いて図書館に用意することが重要なことであることなど、改めて考える機会となりました。



第二回読書指導員研修会 11月6日(火)

参加者講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計 124名

学校図書館担当スタッフ

講座Ⅰ・Ⅲ

『誰でもできる図書修理の基本』

本の修理は、研修会のアンケート等でも希望する声が多く、今回は午前と午後の2回講習を実施しました。特に午前の講習は全体を6グループに分け、各グループに読書推進担当サポーターが一人ずつついての実習とし、全体の進行は、講師が書画カメラを使って手元を大型スクリーンに映しながら進めました。

セロハンテープは使わないという基本から、バラバラになりかけた図鑑の修理方法まで、参加者持参の本それぞれの対処法を考えながらの講習は、「初心者ですが、分かりやすく勉強になりました」「本で勉強するより実践的で良くわかりました。また参加したい」「1グループに一人先生がついてくれ、すぐに質問できてよかったです」「(午後参加の方)人数が少なく、丁寧に教えていただけました。修理がしたくてうずうずしています」等の感想をいただきました。



講座Ⅱ

『子どもと本を結ぶポップ作りのコツ』

実技講習は『立体ポップカード作り』を行いました。今回はちょっと趣向を変えて立体的なポップを扱ってみました。POPカードは児童、生徒にも気軽にできる本の紹介方法の一つです。

講師よりPOPについての説明、事例紹介に続き、各自の持参した本を使って実習に入りました。色画用紙を使って、果物の「オレンジ」と「リンゴ」をイメージした2個の立体POPカード作りを開始。短い文章の中に、子どもの興味を引くような文や、キャッチフレーズを入れることに苦労している様子もありましたが、完成した作品は、どれも素敵な言葉でいっぱいでした。

最後に、全員の作品を机の上に並べて鑑賞し合いました。「楽しく作業ができ、大変参考になりました」「皆さんの作品とても素敵で参考になり、アイデア次第で工夫できそう」「今後の図書ボランティア活動に役立てようと思います」等のたくさんの感想をいただきました。



学校図書館活用重点校紹介 ～ その3～

平成 24 年度重点校 22 校の図書館を順番にご紹介しています。



<p>長房小学校</p>			<p>左：第二図書室の整備で新着本展示棚を設置。図書委員のおすすめ本が帯付きで展示されています。</p> <p>右：本の帯づくり、委員会とボランティアの皆さんで作業を楽しみました。</p>
<p>上柚木小学校</p>			<p>左：POP づくり講習会での作品。どこに展示しようかなと考えるのも楽しみです。</p> <p>右：読み聞かせの講習。グループに分かれて、日ごろ一人で選んでいる本についての交流を深めました。</p>
<p>第三中学校 (いずみの森学園)</p>			<p>左：図書委員オリジナルポップを付けた「図書委員のおすすめコーナー」の本はよく借りられます。</p> <p>右：ボランティアさん作成のウエルカムボード。階段の踊り場で昼の開館をアピールしています。</p>
<p>横川中学校</p>			<p>左：夏休みを使って大改造。図書委員や先生方、保護者の協力でダンボール箱に分けた本を、書架へ戻していきます。</p> <p>右：あふれていた本もすっきり収まりました。丸いテーブルを置いて、くつろぎのスペースへ。</p>
<p>美山小学校</p>			<p>左：季節のおすすめの本を展示。壁のボードには、ボランティアさんと先生で作った、かわいらしい掲示が目をはききます。</p> <p>右：中央図書館の団体貸出セットを利用しています。展示紹介。</p>
<p>松木中学校</p>			<p>左：図書室整備サポーター、先生が中心になり夏の整備作業。有志の生徒も参加しました。</p> <p>右：図書委員のおすすめの本の紹介。花の装飾（サポーター協力）がアクセントになり、生徒の視線を集めます。</p>

本が好き！

このコーナーでは本の紹介をしていきます。

今回は、第三回司書教諭研修会で講師の先生より紹介があった本です。

表紙画像の利用は出版社の許諾済です



	<p>『火曜日のごちそうはヒキガエル』新版 ラッセル・E. エリクソン/作 ローレンス・ディ・フィオリ/絵 評論社 みみずくにつかまり、たんじょう日のごちそうにされそうな、ひきがえるのウォートン。いそいでにげださないと、火曜日には食べられてしまう！でも、毎日一緒におしゃべりしているうちにふたりは…。あたたかいお話。</p>		<p>『アリになったカメラマン』 昆虫写真家 栗林 慧 栗林 慧/文・写真 講談社 少年時代の夢をひたすら追いかけて写真家になった作者の自伝。さまざまな工夫や技法を駆使し、自らカメラも製作。どれも普通では考えられないアングルから撮影された写真は迫力満点。一つのことを追い続け、挑戦し続ける姿は感動です。</p>
	<p>『アフリカの音』 沢田としき/作・絵 講談社 広大なアフリカの大地。鳴り響く太鼓にこめられた人々のさまざまな思い。生きる、働く、楽しむ、祈る…純朴な音と大地のエネルギー。昨年故人となった作者の、ひたむきな誠実な生き方が伝わってくるような絵が魅力的です。</p>		<p>『リトルベアー』 小さなインディアンの秘密 リン・リード・シクス/作・渡辺南都子/訳 高橋由為子/絵・小峰書店 プラスチックの人形を戸棚にしまうと、小さな人間に变身！少年オムリとインディアン・リトルベアーの奇想天外な冒険の世界へ。大人も楽しめます。</p>

図書館へGO！ 《委員会活動（小学校編）》

◆学校図書館活動のバロメーター

充実した学校図書館には活発な図書委員会活動があり、図書委員会活動の盛んな学校では学校図書館の活用がめざましいといわれます。学校図書館と学級を結ぶ大事な役割を担っている委員会活動に光を当ててみました。

◆多様な活動を工夫

小中学校の多様な図書委員会活動を分類すると、①当番活動 ②資料の整理活動 ③広報活動 ④集会・行事活動 ⑤調査統計活動、というように整理できそうです。

横山第二小学校の図書委員会では、「しおりのプレゼント」に取り組みました。図書委員と先生方が色画用紙を用いて手書きのしおりを製作し、図書の時間や中休み、昼休みに本を借りた人に1枚プレゼントするというものです。全校の読書推進に一役買ったということです。

由井第一小学校の図書委員会では、児童集会を利用して「全校オリエンテーション」を実施しました。15分ほどの時間をフルに使い、劇仕立てで図書館利用の約束をアピールしました。舞台上演じられることによって一層の効果があったということです。

◆委員の児童にも研修の機会を

せっかく図書委員になったのだから、子どもたちが図書館や本のことについて学ぶ研修会を計画してはいかがでしょうか。長房小学校の図書委員会は、「おすすめ本の帯作り」に取り組みました。全校児童に読書を訴えるとともに自らの勉強にもなったということです。



横山第二小学校「どもしおりをもらおうかな」

平成24年度第3号
12月17日発行
(通巻11号)

八王子市教育センター 学校図書館担当

連絡先 電話 042-664-1135 / FAX 042-662-2988

住所 八王子市散田町 2-37-1

教育センター アドレス: b300700@city.hachioji.tokyo.jp